

# 両下腿の疼痛にエイトが著効した 糖尿病合併関節リウマチの一例



北海道せき損センター  
内科/リウマチ・膠原病センター長  
竹田 剛 先生



## 【患者背景】

症例は71歳女性、10年来の関節リウマチ(RA)の罹病歴があり他院で加療されたが、治療抵抗性でメトトレキサート・生物製剤併用でプレドニゾロン(PSL) 10mg/日を投与されていた。また発症時より糖尿病(DM)の合併があり経口糖尿病薬を投与されていたが、HbA1cは7台で経過していた。

2022年3月胸椎圧迫骨折で当院整形外科に入院、以後当科でRA・DMをコントロールすることとなった。

当初より針を刺すような両下腿の疼痛・しびれを訴えており、前医よりブプレノルフィンテープが処方されていたが効果は不十分とのことであった。RAのコントロール不良によるものと考え生物製剤をJAK阻害薬に変更しPSLは減量、疼痛コントロール薬としてブプレノルフィンテープを中止し、ミロガバリンベシル酸塩・デュロキシチン塩酸塩・トラマドール塩酸塩を投与したが効果はなかった。また、糖尿病性神経障害によるものも考えられたためエパルレスタット・メキシレチン塩酸塩を使用したけれども無効であった。

## 【エイトの使用を開始して】

6月下旬エイトのデモ機を使用する機会があり、過去の報告より難治性疼痛への有効性が期待できることから、両下腿に30分ずつ使用を開始した。開始は金曜日で週末使用後の翌月曜日の回診時に使用感を尋ねたところ「すごく効いている。これまでは痛みがあって眠れなかったがこの週末は良く眠れた。」とのことであった。

以後も継続使用の希望があり、外来で未使用の時間帯に連日両下腿にエイトを使用、7月末の退院時には「とても効いているので持って帰りたいたい」との談であったが、もちろん「デモ機なので申し訳ありませんが持ち帰ることはできません」とお断りせざるを得なかった。

### 【エイトの使用感】

気になる点としてはバッテリーの消耗が早いことその他、パッド固定の際にサージカルテープを使用した時、テープの粘着剤が機器に付着し拭き取るのが困難だとの看護師からの指摘があった。

メーカー担当者のお話では専用の粘着テープを使用しても同様とのこと、この点は弾力包帯を使用して固定するなど、粘着剤を使用しない固定方法を工夫する必要があると思われた。

### 【その後の経過】

退院後この患者様は他院に通院しているため、エイト中止後の疼痛の経過については不明であるが、エイトの有用性を認識させられる一例であった。

エイトは現在保険認可されていないため当院ではデモ機の使用経験のみであり、本症例の他にも外来で使用した帯状疱疹後神経痛に一例有効であった症例を経験している。

一方で、外来での使用であったため連日使用が難しい症例や週末の使用が困難であったせいか、効果が実感できず途中で使用を中止した例も数名存在し、十分な効果判定を行うには継続利用の必要性があるものと思われた。

### 【エイトの可能性】

関節リウマチ・シェーグレン症候群・線維筋痛症などリウマチ・膠原病領域には難治性疼痛を訴える患者様は多数存在する。また帯状疱疹後神経痛や糖尿病性神経障害などの合併例もしばしば経験され、薬物抵抗性の例も多い。

エイトはこれらの難治性疼痛症例に対して非薬物療法で簡便に使用できる可能性がある。過去の臨床試験では重篤な有害事象の報告もなく、ペースメーカーなどの植込み型電気医療機器等の装着が無ければ禁忌となる患者もないとされており期待が多い。

一方本症例は入院加療だったため継続治療できたが、外来症例で使用するにはレンタルによる在宅での継続が望ましく、どのような形で保険適用されるかが注目される。

いずれにしてもエイトは難治性疼痛治療の新たな選択肢となる可能性があり、保険適用後に当院でも採用を検討したいと考えている。

#### 薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスⅡ

(管理医療機器 特定保守管理医療機器)

**ait** aid  
innovation  
technology

株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL [contact@p-mind.co.jp](mailto:contact@p-mind.co.jp)